

学生との死闘！

ゆうほどの死闘ではない。単に、オレが怒っているだけなのだが、客の目を引くためには、題は派手な方がいい。映画の宣伝と同じです。

ある日、大学の事務局の方が 2 人みえて、「この建物の向かいに大学が来ます。工事はこれからです」という。他の人々はどういわれるか知らないが、ボク個人は反対です。はっきりと「大学なんかいらん！」と言った。研究室や事務局の人がくるのは反対しないが、学生はいらぬ。あんなもの、カネを落とさず、ゴミだけまき散らす。そんなもん来たってなんのメリットもない。しかし、この 2 人にもボクにも当然ながら、中止する権限はない。(当たり前ですが。)

で、大学ができた。たしかに、それまでの大学は、阪急バスが午前中に 1 便、夕方に 1 便。どんな山奥の村でももう少し便数はあるだろう。今のところに移転すれば、千里中央から歩いて 20~30 分、阪急バスも頻繁にある。さらに将来地下鉄が延伸されて、駅前大学になる。便利なことこの上がない。いいことづくめじゃないか。まあ、仕方がないか。……ところが、学生の質が悪すぎる。立った姿や歩く姿で大体わかります、ワタシには。

ところが、大学当局が、COM バスに乗せろ、という。「そんなバカなことがあるか！何も教官や事務の人にまで歩け、とはいわない。歩行困難な学生も仕方がない。阪急バスにのればいいだけのことではないか。しかし、一般学生は歩かせる。我々だって、20 分も 30 分も歩いて通学してきた。どうしてもと言うなら、「阪急バスに乗れ！」……しかしながら COM バスも人口の減少の為経営が苦しいらしい。やむを得ないが、妥協案で、本来の企業の人を優先させろ。学生は、午前 9 時以降になら乗ってもいいにするべきだ！……COM バスは、現在の千里中央から船場まで走っているバスは、延伸になれば、事実上不要になる。駅から遠い会社の人々の足になるしかない。

なぜ、学生を甘やかすのだ！ というわけで、学生との接触は全くなかった。

以下、余談になる。重要な余談です。

もう 20 年にもなるから、もう時効だろう、と思うので実名を書く。ボクの家は、道路から少し奥まった所にあり、車なら、3~4 台は止められる。奴らが来る前にも勝手に利用して、自分の所の駐車場代わりに使っていた。ひどい奴は、子どもが遊んでいる所に、トラックを突っ込んできたバカもいる。こちらが黙っていると、傍若無人に使用する。まともな人間がいそうな時に行って、そこは私有地だから、二度と車をとめるな！……以後車を止めるバカはいなくなった。そのうちいつの間にか、いなくなっていた。

それはともかく、20年も経てば、多少は賢くなったか。つぶれていないところをみると、周囲の人々に迷惑をかけながら、しぶとく生き残ったか、あるいはボクのように文句も言わずに辛坊している人格のひとが周囲に住んでいるのか。…野中の一軒家なら文句もでない。

最近、TVドラマの最後のテロップに、「劇団ひまわり」とか「劇団東俳」とか流れることがよくある。そのたびに吹き出すか、鼻でせせら嗤うことがよくある。なぜか？ どちらもうちの家のすぐそばにあったからで、どちらも常識のないバカの集まり、嘘つきの劇団というより集団だったからである。御推察の通り、揉めました。

まず、劇団「ひまわり」から。歌やら踊り・ダンスやら稽古しているのだろうが、隣のビルの7Fにあるのにうるさい。それが2Fに引っ越してきた。うるささも倍増する。問題が2つあって、ひとつは、レッスン中の音がうるさい。たまりかねて、クレームをつけた。ところが、若い男が対応し、「レッスン中は窓を開けるのは禁止です。」とのたまう。…では確かめに行こう。…すると、3つのレッスン室すべてで窓が開放されている。男は、「窓は閉めてね」くらいしか言えない。謝罪ももちろんできない。こいつはバカだと思いましたネ。2つ目はビルの周囲に劇団員のガキの送迎のための車が駐車して、大きく歩道に乗り上げている。当然違法駐車だ。これにもクレームをつけに行ったら、バカな女がしゃしゃり出てきて口先ひとつで俺を丸め込むつもりだったらしい。アホか。駐車しないようにいってありますし、見張りもしていますから。(よくまあ、平気でそんな嘘をつけるものだ。)挙句、「アンタ、オレを舐めとんのんか。開き直るつもりか！」と言ったら、ソファーに崩れこむようにして沈黙しとる。それまでの饒舌が消えた。躰の悪いガキを集めて金儲けなんかするなよ。違法駐車をなくすために、番人をやとえ。おまえ、今すぐ行って番をせえ！…あくる日から先のバカな男が1日中立って、番をしていた。

数日後、責任者と称する男がきて、先の若い男が「植田さんのところには、菓子折りを持って謝罪にいきました」との報告を受けていると言う。「オーイ、あんた菓子折りをもらって謝罪をうけたのか？」と女房に聞くと「いいえ、まったく知りません。」　　つまりは嘘の報告をしていたのだ。

ところで引っ越しをします、と言う。いずれにしてもここから消えてくれるのは有難い。男女2人が来て菓子折りを持ってきたから、「順番が違う。先にもってくるのが常識のある社会人としてみとめられる。」　　たまたま野良の子猫を抱いて遊んでいたのも、猫投げつけるぞ！嘘つきの2人をなぜ連れてこない！無論、菓子折りはうけとるはずがないでしょう。早々に帰れ、オレが怒りだす前に。二度と来るな！　　そして逃げるように帰りました。

ちなみに、隣のビルの2Fには、変な会社が来る。たまたまその方向にむかっ

てパソコンをうっていたら、痰がからんで、ようやくとれたらしい。普通の社会人ならティッシュにくるむか、トイレか洗面所に吐き出すだろう。ところが、このオネエチャン、なにを思ったか、窓を開けて、ウチの方向に向かって吐き出したのである。エッと思ったが、そのままパソコンの操作をしていたら、こちらの姿がみえたのだろう、びっくりしたような顔で、聴かれなかったか、あるいは見られなかったか、と様子を窺っていた。全部見てましたよ。普通なら怒鳴り込むところだが、鹹にするまでのつもりはなかったし、パソコンの作業が忙しかったので、黙っていてやった。二度とはしなかったようだが、いくら化粧で化けていても、育ちは隠せない。……誰がみているかわからないのに、お里が知れるようなことをしてはいけない。ワタシも、立ナントカなど絶対にしないようにしよう、と心に誓ったのであります。

劇団東俳の方はもっとひどいというか、いい勝負だと思いますが。ある夜、11時を過ぎていただろう。飼い犬が頻りに吠える。御近所に迷惑だから注意しようと向かって行った。建物の前に駐車してそこにしゃがんで携帯電話を掛けて居る。その男、しばらく左手に持っていたコップの中の薄い水割りか何かを眺めて考えている。多分オレに向かって投げつけようかどうか考えていたのだと思う。まあ、投げつけていたなら、少なくとも腕の1本は覚悟してもらわな。こっちは、ある意味待っていたのだが。さすがに、それをせず、おもむろに、「お宅の犬のしつけの問題でしょうが」とのたまった。即座に「アッ。では教えてほしい。真夜中に薄暗がりでもソボソと独り言を喋っている怪しい不審者に向かって、吠えるな、と躡ける方法があるならどうしたらいいのか、教えてもらいたい。」……言い負かされて、「お宅は大体どこの人や」「オレここは、ちょっと奥まったどん詰まりのあそこの家や」……すると、このアホウ、なんと云ったかわかりますか？

「近所のことやのに文句を言うな！」です。

呆れかえるというのはこのことだ、という見本のような表現だ。「アホッ。おれここは、20年も30年も前からここに住んでいる。おまえとこみたいな、いつ引っ越ししてきたかなんの挨拶もでけへん奴にゴチャゴチャいわれることはない。菓子折りもって今度引っ越ししてきました、ご迷惑を掛けますが、ゆう挨拶も全然でけへん奴が何を言うとんねん！」……さすがに無茶を言った、しまった、と思っている。そのくらいの心理が読めなくて、この仕事がやっていけるか！

ついでに言うておくが、「このウチの前に車をことわりもなく止めてるのがいるが、ここは私道やねんから、勝手に止めるな。全員に徹底させろ！」相手はグーの音もでない。すごすごと帰って行きよった。

そのあくる日の晩、シャッターを全開して大音量の音楽をかけて仕事をしているのがいた。当然犬は吠える。何時までやる予定だ？と聞くと明日の朝までで

す。・・・「昨日社長にゆうてんけど、伝わってないらしいな。犬が吠えて、近所迷惑だから、シャッター全部閉めて、静かに仕事をせえ！」・・・このときは、初めから戦闘モードで木刀持って行ったってん。しぶしぶシャッターを閉めると、当然ながら犬は吠えない。

うちの飼い犬、賢いもので、2階の窓を開けても、人影がみえたら吠えよんねん。シャッターを全開するのは、張りぼてをつくるのにシンナーを使うためらしい。・・・野中の一軒家じゃないんだから、街中なんだから。静かに使え！

ところが、ここの社員はオレが悪いと吹きこまれていたみたいで、その後もトラブルは続く。いちいち書かないが、あるとき、ウチの真ん前まで車を突っ込んで4台くらい止めに来よる。窓を叩いて、社長呼んで来い！・・・後ろの車をだすため、とかなんとか言い逃れをしようとするから、町をひとまわりしてこい。そのうちに出られる！

オレが言っているのは、仕事をするなとっているのではない。近所に迷惑がかかるから、犬を吠えさせないように仕事をしろ、と言っているだけだ。

ある晩、夜中の3時ごろに目が覚めたので木刀の素振りをしようと表に出たら、東俳の連中が自分のところの駐車場が空いているのにもかかわらず、ウチの前に止めて会社に入ろうとしていたところにバツタリ出くわした。右袖を思い切り引っ張りながら、「お前らなあ、舐めとったら警察でもxxxでもxxxでも、あらゆる手を使って、お前とこの会社、潰しにかかるぞ！」

3~4日後、ひょいと仕事の帰りに見たら、自慢の郵便受けがない、人のいる気配がない。つまり、ボクのいない間に夜逃げ同然で引っ越しをしたらしい。むろん、挨拶も謝罪もありません。

以上2つの常識も良識もない会社の話です。

さて、アホウの話の後で再び死闘について書いていきます。なぜアホウの話我突然書いたのか、という理由もわかってきます。

「死闘」は、ある日3Fのステージ辺りの嬌声に始まる。何か、劇でもするらしい。詳細については、当然ながら学生から聞いたわけでもないし、挨拶するでもないからわからない。3Fを使うなら、当然観衆は4Fになるだろうし、芝居なら、4Fは、全体を俯瞰できるから指導するのに最適な場所になる。始まって数日後、トイレからの帰りにスポットライトを当てている男がいて、窮屈そうにみえたので、「植木のけましょか？」と言ったところ、大丈夫です、と3Fに向かって走り去った。・・・すなわち、ボクは何もするな、と言う気もないし、むしろ植木が邪魔なら脇にやるつもりでいたこと、つまり親切心の証明です。・・・ところ

が、ふと見ると、女の子がこちらを睨みつけている。こいつなにやろ？ 何考えとんねん？ 変なやっちゃな、関わり合いにならんとこ、などと思っていたら、突如 5~6 人の女の子が同じようにこちらを睨みつけている。しかも、そのスピードたるや、よく訓練された兵隊のように一列横隊に並んで、息のあったこと。正直いえば、何か言う以前に不気味で、別の意味で怖かった。それ以後、学生に直接話しかけたことはない。

初めは夕方からやっていたのが、発表会が近づいたのか、団地組合の部長からボクの方に、日中からやってもいいですか、という話 came。ウン、べつに邪魔にならなかつたらかまわないですが。……ところが、のちにスタッフから、いくつもこちらの仕事の邪魔になることが報告されてきた。

例をあげると、ボクの診療所では、コロナワクチンを隣の部屋を借りて接種していた。同じ入り口なら、**Social distance** をたもてないから、北側を出口に、南側を入り口にしていた。この部屋の広さなら、コロナワクチンを 18 人、24 人でも **Social distance** が保たれ、のみならず、インフルエンザのワクチンも、健康診断が長引いて何人も待たせることがよくあったのだが、皆座って待てるから、スタッフはともかく、僕自身は苦情をきいたことはない。またゆっくり打てるから、痛みも少なくなる。

入り口側のすぐ横に 3F の楽屋に通じるドアがある。まともな子は、きちんとすり抜けるようにはいって行くのだが、アホウは、ドアを遠慮会釈なく大きく開けて「入口」と書いてあるドアを閉めてしまう格好になる。……じつは、かなり経過して、「爆発」の直前に初めて聞いた。……金さえ払えばなにをしてもいい、というわけではない。……そういう無神経さは、ボクが最も嫌うところ。

さて 4F からなら上から俯瞰するから、指導しやすい、と書いた。やつらは、椅子は勝手に使っているし、白い箱は邪魔だから勝手に移動させる。一度だけ、箱が移動していたので、黙って元に戻したことがある。少なくとも意思表示だけはする。何か言うと、また、違う意味で怖い思いをすることになるから。ここは、「新型コロナ感染（武漢肺炎）の疑い」の人が座って待てるように、許可をもらって設置したもので、これにパーティションを加えた 3 つでワンセットになっている。植木をエレベーター・ホールに置いて帰ったのもいる。ただの一人も注意しない。

ひとつだけ、いい話がある。清掃の女性たちは、4F のエレベーター・ホールは先生のところ（診療所のこと）のいわば玄関前に当たるから、いつも念入りに磨いている（暗に、学生らが汚している、という意味ですよ）、と言うのを聞いた。スタッフは知っていたらしいのだが、知らなかったのは、オレだけだったの？ トイレの帰りに世間話を彼女らの部屋で時々はしていたのだが、そんなことを自慢たらしく言うはずもない。彼女らの中には、高校の英語講師をしている人もいる。

改めて恐縮するばかりである。

そして運命の日。つまり、怒りが爆発した朝です。いつもどおり、A.M.5時すぎに4Fに降りたところ、椅子がない。どこにも見当たらない。この時間は二度寝をするか、このように文章を書くか。いずれにせよ、8時頃までだれもいないから、ほかの仕事をしながら時間の経過を待つ。8時になって、5Fの事務局にいて、部長はまだですか？・・・もう少ししたら来ます。「来はったら、即刻ボクとここに来るようにいってもらえますか！」・・・普段、この時のような命令口調で話しかけたことは一度もない。余程に腹に据えかねていたらしい。・・・しばらく待って、部長が来る。「すぐに大学の事務局の人に来てもらって！」・・・「室長」と部長は言っていたのだが、実は次長で、高価な器械や映写機のようなものが3台裸でほったらかしにしてある。次長には、この方が重大だったらしい。当然やけどね。

警備員さんが3Fで椅子をさがしに動いてくれて、こっちは上から、それとちやいます、ああ、そっちの方です。・・・3人で鳩首会議のような格好になって、たまたま小柄な女の子がエレベーターを降りてきた。次長が「君は学生か！」とかなりきつい口調で誰何されたのだが、なんと答えたと思いますか？

「はい、これから稽古をします。」 無論、おはようございます、もない。ボクは、余程、どんな躰をうけてきたのか、「おはようございます、も言えないのか」と言い出しそうになったのだが、どちらかといえば、「親の顔が見てえや！」のほうかふさわしかったか。ほったらかしの器械にも関心がなさそうで、芝居だけを気にしているような感じ。・・・こら、このアホに何ゆうてもあかんわ。

そもそも日中も稽古させてほしい、と言った時点で、ボクのところ、「学生がうろうろして、ご迷惑をおかけしますが、よろしく願います」と声をかけるのが、普通の社会人の常識。最低限のモラル。・・・何かと似ていませんか？ そう、ひまわりや東俳と同じレベルです。・・・そのための振りだったのです。

そこに、偶々清掃員の女性が、2人だったか3人だったか。3Fの奥の楽屋裏の話をする。

食べ散らかしたまんまで、なにせカップヌードルは食べたまんまやし、お菓子の袋はほったらかしやし、舞台は契約にないけれども、あまりの汚さに同じ女性として恥ずかしかったのだろう、サービスでしていました。顔を顰めながら「舞台に髪の毛がいっぱい落ちていて！」・・・ボクはあまりの気の毒さに次長さんの顔を見られなかった。 　　そういう「汚れ」に無頓着なのも気に入らない。

そんなもん、学生に掃除させたらええねん。エレベーター・ホールもさせろ！清掃婦さんらには、絶対さわらなくていい、とまで言った。椅子は箱とセットで、新型コロナ疑いの患者さんが座って紹介状が出来上がるのを待っている場所です

その後の騒ぎについては、仕事が始まったので、知らない。それでも、あとで清掃婦さんらに話を聞くと、「先生がいてくれはったからよかった」と感謝する。なんでや、ときくと、「ワタシらの立場では言えませんもん」。こちらは、恐縮するのみでした。 たった一人でもいい。注意して、片付けようといいたしのがいたら、また違った結果になっただろう。

午前の仕事が終わって、朝の騒動で眠りたらなかったのに、ウトウトしていると、家内が、「大学の先生が謝りに来たというてはるねんけど」・・・そんなもん、ほっとけ。・・・そういうわけにもいかんでしょ。やむなく眠い目をこすりながらでてみると、背の高い若い男が恐縮している。「あなたは？」と聞くと学生です。「ご迷惑をかけまして申し訳ありませんでした。」と最敬礼する。要は、社会人としての最低限のモラルをもってもらわにや。それだけです。選挙権も持ってるのやろ？ さすがに大学がえらんだか、態度もキビキビしているし、態度も悪びれないのを寄越した。顔を見てもまともそうな顔をしている。

その後、大学に行って次長さんに「朝早くから呼びつけてしまって失礼しました」というつもりだったのだが、室長と聞いていたので、室長さんは？と尋ねると来られた人と違う。「アレッ、今朝来られた方は？」と聞くと、次長なら COM3 号館に。入れ違いだった。事務の大柄な女性があやまってくれたのだが、貴女があやまることではない、学生の問題ですから、というつもりが、バタバタしてしまって、きちんと言えなかった。改めて言います。「貴女が謝ることはない。」

家内はいつも夜、稽古をしているのを知っていたから、発表会には、見物の人もみえるんでしょ、このへんのものを除けておきます。長椅子や植木を除けるという。・・・(内心では、ほっとけ、そんなもん！)・・・次長さんにだったか、「家内です」と紹介したのは、そういう理由にある。普段は紹介さえないのが原則である。

事務局の方が、学部長が組合本部に礼をいいにくるので、こちらに謝罪に、というから、そんなえらいさんがでるところではない。問題は、学生にある。この程度の学生を指導する立場を考えると、むしろ気の毒に思える。来ていただかなくても結構です。ボクよりも 10 歳は若いだろうし、学部長にまでなった方だから、無暗に学生のために頭を下げるべきではない。むしろ、親の躰けでしょうが。

以下、アホウな親の話

「入学した時は外大だったのが、卒業したときには、阪大卒になっている、」と嬉しそうに自慢して語った小学校の女性教師。

東京の大工の棟梁が、「親の顔がみてえや」といったら、あくる日、ほんとうに親を連れてくるんだものなあ。・・・子どもだが親も親。2人そろってバカであることの証明みたいなもの。

母親が保健所に来て、猫を処分してくれ、という。どうして猫を飼ったのですか？「情操教育の為です。」……「それなら、最期まで面倒をみてやるのが情操教育でしょう？」 「いえ、それはもう済みましたから」「……」もう狂っているとしか思えない。何百年も前に考えたひとの、いわば誰しも持っている知識をつめ込むことだけが、人生の仕事だと思っている。その子がどんな人間になっているのかみてみたい。こいつらに、「人間性豊かな人格の形成」などと言っても、理解できないだろう。

「教室内で子どもたちに落ち着きがない。この実情を説明しようと PTA をひらきました。教室に集まったら PTA はもっと落ち着きがないんです。」

「もれない、むれない。そんなおむつで育つから、自分の環境に気が付かない奴になるんだよ。」

「子供は親の言う通りに育つんじゃない。親のするとおりに育つものなんだ。」

「教育だ、教育だ、というけれど、たいせつなのは、教育の前の『躰け』です。『躰』のできていないガキどもを預かる身にもなってください。」

小学校で、父親参観の日。ある父親が「先生、親のいうことを聴くように言ってくれませんか」……………

在宅看護をしていた友人の看護婦が、ある高校で教えていた。たまたま、父親参観の日だった。上の小学校とまったく同じセリフを聞いた、とボクの友人が言う。

どことはいいませんが、今宮高校です。……今宮高校といえば、そんなに程度の低い高校じゃないですよ。父親のレベルは、小学生とまったく同じです。

そういう親に育てられた子供が今の学生なら、親の世代のみならず、我々と同じか、少し下の年齢層が、そういう狂った親を育ててきたのだ。しかし、まともに育てているのもいるのだから、やっぱり資質の問題でしょうな。炭は、いくら叩いても焼いても、ダイヤモンドにはならない。

余談の余談

ある看護婦と話をしていた。彼女はモンゴル語学科卒業生だという。(註；看護婦と書いているのは、まだ看護師と名前が変わる前の話だからです。NHKのように、戦争中の看護婦まで看護師などと、歴史に嘘はつけませんから)彼女の台詞が「あんなもん、何の役にも立ちません。だから、看護学院に入学しなおして看護婦になった」という。4年間、国費を無駄遣いしたという後ろめたさもなく、我が道を行くそのものでした。……モンゴル語学科は、司馬遼太郎さんの母校で有名になった。うまくすれば、日本とモンゴルとの懸け橋になっていたかも知れ

ないのだが、彼女にはそこまでの気持ちになかったのだろう。20年余り以前に、モンゴル・パートナーシップ（MoPI）に参加して、モンゴルに何度か行ったが、キリル文字と食べ物に閉口してあきらめたことがある。

それはともかく、発表会がすんだあと、満面の笑みを浮かべて女性が2人挨拶にやって来た。見たこともない人ばかりである。責任者か、と問えばそうだと答える。では、最敬礼してくれた男の子は何だったのか？・・・これどこかで書いた話と似ていませんか？・・・そう、ひまわりや東俳と同じ。・・・いろいろやってきたことは、・・・東俳そのもの。こっちはムカツときて、今までの学生の態度を責める。2人にとっては、せっかくお礼に来たのに・・・と災難みたいなものだっただろう。これを2時間くらいやって、貧血でひっくり返るまでやってやろうと思っていたのだが、患者さんがみえたので、それで打ち切った。あとで考えると、ひとりは教官で、というなら学校ぐるみじゃないか！

どうせ迷惑をかけるなら、もっと上手にかけられないのか！

まだある。警備員さんの何人かに尋ねた。「学生たちは、警備員さんに挨拶をしてから館内に入りましたか？」「いいえ、ひとりもありませんでした。」同じく、清掃員さんに尋ねる。「私たちが汚したあとを掃除していただいて申し訳ありません」と声をかけた学生はいるか。答えは書くまでもないでしょう。・・・学生からみれば、COM3号館は、いわば他人の家である。そこの人間に対し、挨拶ひとつできない。エレベーターから降りてきた女の子と躰の悪いガキとどれほどの差があるというのか。いくら化粧や香水で武装して誤魔化しても、お里は知れるのです。ドアを開けたままで帰っても、警備員さんが後始末をしている。

ついでだから聞くけど、COMバスの運転手さんに挨拶くらいはしているだろうな。

オレは、必ずするようにしている。なにかの拍子に声をかけられないことがあっても会釈は忘れない。スタッフはスタッフでそれなりに声をかけて感謝の気持ちを現してはいるが。たとえ、今自分が世話になっていなくとも、スタッフや患者さんたちがどこでお世話になっているかも知れないではないか。高島俊男先生ではないが、「本が好き、悪口言うのはもっと好き・・・」ですが。ギスギスしている世の中で円滑な社会生活を営むための社会人としての最低限のルールは、守って生かしてもらっています。・・・これは、今になって始めたことではなく、若いころからそうしています。上にゴマを播って出世するよりもはるかに充実した人生を送れた、とも思います。まだ先は長いけど（皆さんが期待しているほど、ボクの寿命は短くないですから）。

2021.12.21.